

臨港道路（海上橋梁）の最近の事例（雑誌「土木施工」（7月号）に掲載）

本稿は、「港湾機能と技術」という特集の施工報告として「臨港道路（海上橋梁）の最近の事例」というタイトルで投稿しました。

臨港道路の海上橋梁は、①港湾の航路・泊地の上に架設されることが多く、航路・泊地に橋脚を築造できない、②水深が大きいため橋脚を少なくして長大スパンとした方が経済的である等の理由から、吊橋、トラス橋、斜張橋、長大スパン橋といった大規模な構造が多く採用されています。

本投稿内容は、臨港道路海上橋梁の最近の事例として、当センターが施工検討等で携わっている中から、次の7事例について、各港湾毎に、①港湾の概要、②臨港道路の概要、③海上橋梁の構造の概要（○小名浜港はPCエクストラードード橋、○東京港は主橋梁部が鋼3径間連続トラス・ボックス複合橋、アプローチ部が3及び4径間連続鋼床版箱桁橋、○伏木富山港は主径間を鋼桁、側径間をPC桁とした複合斜張橋、○呉港は7径間連続鋼床版箱桁ラーメン橋 等）についての紹介を行っています。

- ・小名浜港東港地区臨港道路（小名浜港）
- ・東京港臨海大橋（仮称）（東京港）
- ・横浜港南本牧ふ頭～本牧地区臨港道路（横浜港）
- ・川崎港東扇島～水江町地区臨港道路（川崎港）
- ・新湊大橋（伏木富山港）、
- ・マリノ大橋（仮称）（呉港）、
- ・岩国港臨港道路（岩国港）